

鑑賞 + 表現【造形遊び】

高学年 / 5 時間

## 題材の目標

美術作品の表現のよさや意図などに関心をもって鑑賞する。

感じたことや見たことを生かし、身近な材料を使って、飾る場所に合ったものを楽しくつくる。

著作権の事情により、作品写真の掲載はできません（美術館をご覧ください）

「Vertical White Frame」(四角い白い枠) アレクサンダー・コールダー

**準備物** 【教師】「Vertical White Frame」の写真（できれば簡単な模型があるとよい）  
比較する作品，テープ類，紙類，布類，針金，ひも，ビニール板，卵のパック，セロハン，セロハンテープ，カッターナイフ，工作板など  
【児童】はさみ，のり，身近にある色々な材料など

## 学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>「Vertical White Frame」を見て，他の作品と違う所を見つけて，表現のよさなどを話し合う。</p> <p>グループに分かれて，校内に飾る「モビール」作りの計画を立てる。</p> <p>* テーマ * 場所 * 材料集め * 楽しい発想や工夫</p> <p>グループで協力して，風にゆれ，光と影が楽しめる「モビール」をつくる。</p> <p>お互いの作品を鑑賞する。</p>	<p>額縁に入れられ固定した絵や床に置かれた彫刻などと比較させ，風や空気の流れて自由に動き，見える形や影が変わる様子などをつかませる。</p> <p>校内環境がより楽しいものとなるように安全面に気をつけながら計画を立てさせる。</p> <p>風にゆれるおもしろい形や色，光と影が作る美しい世界など，コールダーの作品をヒントに発想を広げ楽しませる。</p> <p>材料や接着は，風にゆれたり回転できるようにしたり工夫させ，飾る場所（屋内外）に合う材料を考えさせる。</p> <p>他学年の児童の感想も聞ける機会などを設定する。</p>	<p>作品のよさや表現の意図に関心をもつ。</p> <p>材料や場所の特徴を生かし，楽しい造形活動を考える。</p>

## 題材の意図と指導のポイント

### < 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、個性的な面が見られるとともに、社会性も育ち他の人の気持ちを考えながら行動し、友だちと協力して活動することができるようになります。高学年では、グループ活動を効果的に取り入れることで、連帯感や達成感を味わうことができ、学級作りにも役立ちます。

### < 鑑賞の視点 >

この「Vertical White Frame」(四角い白い枠)は、「静」の世界の彫刻に「動」を取り入れた作品です。発想の新鮮さやおもしろさを味わいましょう。

白いフレームの中に6つの単純な形が配され、空気の動きに伴い、それらの形と影は微妙な変化を見せます。作品のポイントは「動」の面白さや偶然性にあります。

### < 指導の工夫及び配慮 >

「Vertical White Frame」(四角い白い枠)を鑑賞する時、写真だけでは「動き」が分かりにくいので、簡単な模型を作り示すとよいでしょう。

動く形の影に注目させたい場合には、投影機などを使って影の形の変化を鑑賞させてもよいでしょう。

### < 教具(教材)づくり >

児童の発想を広げ、活動を楽しむために、あらかじめ多様な材料を準備しておきましょう。

## 「Vertical White Frame」(四角い白い枠)

1936年 高さ 265.4cm

この作品は、木や金属など色々な材料を組み合わせ、作られています(ミクスト・メディアという)。絵画を思わせるような白いフレームの中には、まるで何かを連想させるような鮮やかな色彩の物体が、空気の流れて動くようにワイヤーでつり下げられています。フレームは上部が前に出ており、物体の影が後ろの壁に映っています。見る位置や角度、わずかな空気の流れによって、作品の印象は変化します。コールダーは、モーターで動く作品を制作しましたが、自由に自然な動きを作品に取り入れようと研究を続け、本作はその研究過程に当たる作品です。現在の風や空気の流れによって動く「モビール」の先駆けとなった作品です。

## アレクサンダー・コールダー

1898年～1976年

アレクサンダー・コールダーは、アメリカのペンシルヴェニア州フィラデルフィアに生まれ、彫刻家の祖父と父、母は画家という環境で育ちました。コールダーは、子どもの頃から木や針金でおもちゃを作るのが好きでした。彼は、エンジニアの勉強をして仕事に就きましたが、20代になって美術家になることを決意しました。1930年、モンドリアンのアトリエを訪ねたことがきっかけで抽象的な作品を制作し始め、ホアン・ミロからも大きな影響を受けました。1932年、手やモーターで動く作品を発表し、マルセル・デュシャンに「モビール(動く彫刻)」と名付けられました。コールダーは、魚や鳥の形をしたもの、抽象的な形のものなど赤・青・黄の三原色をよく使って何千ものモビールを作りました。彫刻に「動き」を取り入れたコールダーのモビールは、現代彫刻の発展に大きな影響を与えました。